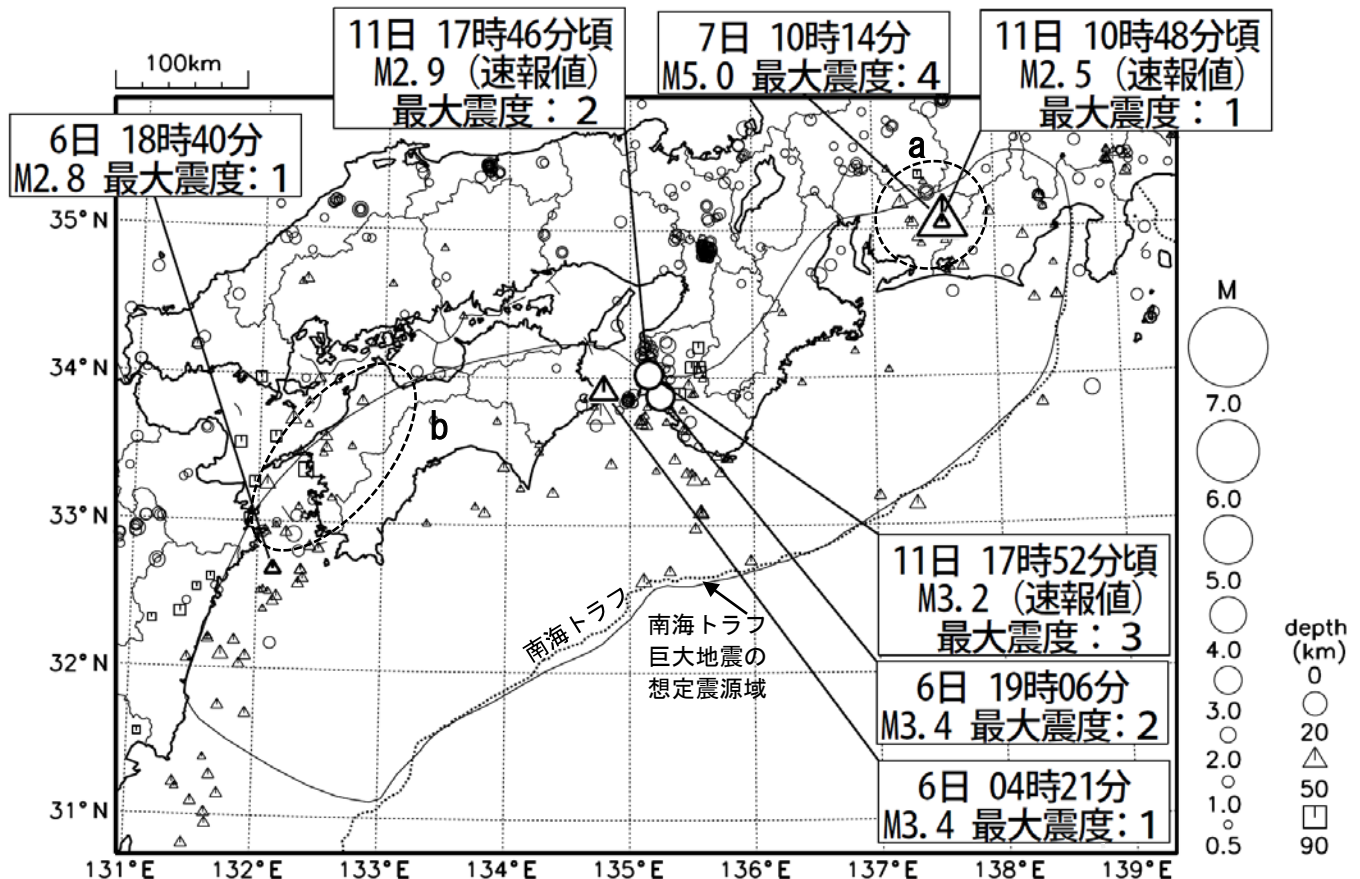


南海トラフ周辺の週間地震活動概況 No. 41

* 震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。

震央分布図（平成30年10月5日～10月11日）



“南海トラフ巨大地震の想定震源域で震度1以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震”及び“その他注目した地震”に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している（M $\geq$ 0.5、震源の深さ0～90km）。

[概況]

9月29日頃から10月7日頃にかけて豊後水道から愛媛県中予付近のプレート境界深部で短期的ゆっくりすべりが発生したと推定される。

7日10時14分に、愛知県東部の深さ42kmでM5.0の地震が発生した。

11日17時52分頃に、和歌山県北部の深さ約10kmでM3.2（速報値）の地震が発生した。

[主な地震活動]

- ・ 7日10時14分に、愛知県東部の深さ42kmでM5.0の地震（最大震度4）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。
- ・ 11日17時52分頃に、和歌山県北部の深さ約10kmでM3.2（速報値）の地震（最大震度3）が発生した。この地震は地殻内で発生した。

[主な深部低周波地震（微動）活動^{※1}と地殻変動]

[領域a] 10月7日以降、愛知県で深部低周波地震（微動）を観測している。

[領域b] 9月29日から10月7日にかけて、豊後水道から愛媛県中予にかけて深部低周波地震（微動）を観測した。深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計^{※2}に変化が現れた。これらは、プレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

※1：上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみを表示している。このため、震源決定精度が低い深部低周波地震（微動）の震央は表示していない。

※2：産業技術総合研究所のひずみ計。